

内容を読み取ろう②

年 組 名前

☆ 次の文章は、三内丸山遺跡さんないまるやまいせきのことについて書かれた説明文です。どんなことが書いてあるのか、内容をしっかり読み取って、この文章から分かる三内丸山遺跡の様子をまとめてみましょう。

さて、発くつ調査から、じょう文人のどのような生活があったのだろうか。

集落の北西のはしから、直径二メートル、深さも二メートルほどの大きな穴が六個見つかった。この穴は、四メートル二十センチメートル間かくで、三個ずつ二列に並んでいた。そしてこの中から、直径一メートルのクリの木を使った太い柱が出てきた。どうも相当な規模の建物のようだ。わたしたちは、この建物の高さや形を調べることにした。

まず、現在の森にある直径一メートルのクリの木は、高さが二メートルほどであり、柱材としては十五メートルくらいが利用できることが分かった。また、遺跡の柱の真下の土は、周りの土に比べて色が変わっていることに気がついた。これはおそらく、長い間相当な重さがかかって変化したもので、この土を調べることによって、全体の重量を推定することにした。専門家の分せきでは、一平方メートル当たり七トンほどの圧力が加わっていたという結果が出た。これから、高さが十五メートルをこえる大型の高ゆか建物である可能性が高くなった。

また、長さ約三十二メートルの大型のたて穴式住居あとや道路あとも見つかったことから、じょう文人はわたしたちの想像以上のすぐれた技術を持っていたことが明らかになった。

これらの建物はとても一人でできるものではない。大勢の人々による共同作業によってのみできるものだ。大規模な共同作業をするときにはリーダーがいたかもしれないし、専門家や技術者も必要だ。たくさんの人と組織、技術があつてこそできたのである。そういうことができたじょう文時代であったことになる。

ごみ捨て場を調べると、じょう文時代の食生活が分かった。しっ地に捨てられたごみは、くさらないでそのまま残っていた。そこから見つかった動物の骨は、シカ・イノシシなどの大型の動物が意外と少なく、ウサギ・ムササビなどの小動物や、ガンやカモなどの鳥類が多い。魚は豊富で、マダイ・ヒラメ・マグロ・ブリ・カレイ・アジ・イワシなどがある。

植物では、クリ・クルミなどの木の実、ヤマブドウ・キイチゴ・サルナシ・ヤマグワ・ニワトコなどがたくさん出土している。食べられないニワトコは、お酒を作るのに使われた可能性がある。また、ヒヨウタン・マメ・ゴボウ・アサ・アカザなどの、人が手を貸さないと育たない植物の種子も発見された。このことから、当時、すでにさいばいをしていたことが明らかになった。また、大量に出土したクリの花粉と、クリの実を分せきした結果、周辺の大規模なクリ林に働きかけ、手を加えてさいばいしたものであることが分かった。

こうして手に入れた食料は、土器でにこんだり焼いたりして、ハンバーグやクッキーに調理されたようだ。

〔三内丸山遺跡〕岡田康博おかだやすひろ より

1、この遺跡にはどんな人が住み、何を食べていたのでしょうか。

◎ 住んでいた人： []

◎ 食べていたもの（それぞれ二つ〜三つ以上、書きましょう。）

動物： []

鳥類： []

[] ?

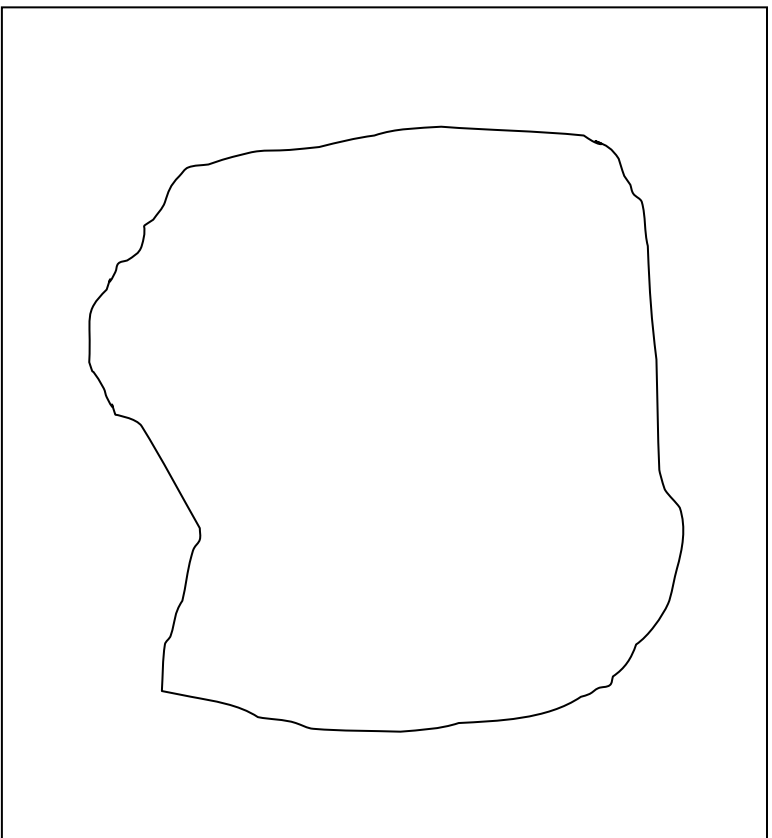
植物： []

2、これらの建物というのは何を指しているでしょうか。

[]

3、この文章から分かる三内丸山遺跡の様子を絵にかいてみましょう。

- ◎ 「大きな穴」は、場所と大きさや数が分かるようにかきましよう。
- ◎ 方角や周りにあったものもかき加えましよう。



内容を読み取ろう②

年 組 名前

☆ 次の文章は、三内丸山遺跡さんないまるやまいせきのことについて書かれた説明文です。どんなことが書いてあるのか、内容をしっかりと読み取って、この文章から分かる三内丸山遺跡の様子をまとめてみましょう。

さて、発くつ調査から、じょう文人のどのような生活があったのだろうか。

集落の北西のはしから、直径二メートル、深さも二メートルほどの大きな穴が六個見つかった。この穴は、四メートル二十センチメートル間かくで、三個ずつ二列に並んでいた。そしてこの中から、直径一メートルのクリの木を使った太い柱が出てきた。どうも相当な規模の建物のようだ。わたしたちは、この建物の高さや形を調べることにした。

まず、現在の森にある直径一メートルのクリの木は、高さが二メートルほどであり、柱材としては十五メートルくらいが利用できることが分かった。また、遺跡の柱の真下の土は、周りの土に比べて色が変わっていることに気がついた。これはおそらく、長い間相当な重さがかかって変化したもので、この土を調べることによって、全体の重量を推定することにした。専門家の分せきでは、一平方メートル当たり七トンほどの圧力が加わっていたという結果が出た。これから、高さが十五メートルをこえる大型の高ゆか建物である可能性が高くなった。

また、長さ約三十二メートルの大型のたて穴式住居あとや道路あとも見つかったことから、じょう文人はわたしたちの想像以上のすぐれた技術を持っていたことが明らかになった。

これらの建物はとても一人でできるものではない。大勢の人々による共同作業によってのみできるものだ。大規模な共同作業をするときにはリーダーがいたかもしれないし、専門家や技術者も必要だ。たくさんの人と組織、技術があつてこそできたのである。そういうことができたじょう文時代であったことになる。

ごみ捨て場を調べると、じょう文時代の食生活が分かった。しっ地に捨てられたごみは、くさらないでそのまま残っていた。そこから見つかった動物の骨は、シカ・イノシシなどの大型の動物が意外と少なく、ウサギ・ムササビなどの小動物や、ガンやカモなどの鳥類が多い。魚は豊富で、マダイ・ヒラメ・マグロ・ブリ・カレイ・アジ・イワシなどがある。

植物では、クリ、クルミなどの木の実、ヤマブドウ・キイチゴ・サルナシ・ヤマグワ・ニワトコなどがたくさん出土している。食べられないニワトコは、お酒を作るのに使われた可能性がある。また、ヒョウタン・マメ・ゴボウ・アサ・アカザなどの、人が手を貸さないと育たない植物の種子も発見された。このことから、当時、すでにさいばいをしていたことが明らかになった。また、大量に出土したクリの花粉と、クリの実を分せきした結果、周辺の大規模なクリ林に働きかけ、手を加えてさいばいしたものであることが分かった。

こうして手に入れた食料は、土器でにこんだり焼いたりして、ハンバーグやクッキーに調理されたようだ。

〔三内丸山遺跡〕岡田康博おかだやすひろより

1、この遺跡にはどんな人が住み、何を食べていたのでしょうか。

◎ 住んでいた人： [じょう文人]

◎ 食べていたもの（それぞれ二つ〜三つ以上、書きましょう。）

動物： [ウサギ・ムササビなど]

鳥類： [ガンやカモなど]

魚： [マダイ・ヒラメ・マグロ・ブリなど]



植物： [クリ・クルミ・ヤマブドウ・キイチゴなど]

2、これらの建物というのは何を指しているでしょうか。

[大型の高ゆか建物・大型のたて穴式住居]

3、この文章から分かる三内丸山遺跡の様子を絵にかいてみましょう。

- ◎ 「大きな穴」は、場所と大きさや数が分かるようにかきましよう。
- ◎ 方角や周りにあったものもかき加えましよう。

